

あいあい通信

AIAI-TSŪSHIN 2000.5 Vol.14



Matsuda Hospital

特集◎抗菌思想と便秘／便秘外来担当 大森 斉医師

新事務長のあいさつ
活動状況

院長の一言メッセージ
ドクター紹介

ヤシオツツジ／水野清蔵様撮影



抗菌思想と便秘

便秘外来担当 大森 育 医師



最

近、買い物に出かけて驚くのは、抗菌をキャッチフレーズにした商品の多さです。そして、テレビを見れば、

抗菌仕様の商品のコマーション、果ては公園の砂場でさえ抗菌仕様だという報道

です。何か不思議な感じがします。確かに

前世紀から今世紀にかけて、破傷風、ペスト、コレラ、赤痢、結核などの感染症に罹り、命を失った人々の数は膨大な

ものです。今世紀の医学の一番の課題は、

いかに感染症をなくすか、という事でした。幸い日本では、経済的な発展とともに

に抗生物質が広く行き渡り、前述した感染症は影を潜めました。そのおかげで平均

寿命も大きく伸び、世界で最も長寿の国のひとつとなりました。

しかし、このように人類が総力をあげて撲滅してきた細菌達は本当に悪者なので

でしょうか？人間にとっては「敵」としての存在でしかないのでしょうか？答え

は『NO』です。敵どころか、人間は細菌の助けがなければ絶滅してしまうのです。健康を維持するには細菌の力を借りなければなりません。

人

間はこの世に生を受けた一時間後には、すでに細菌が体内に入るといわれています。取り込まれた細菌

は、小腸や大腸の中で一気に活動を始めます。小腸や大腸に入ってきた食物を細

菌が分解・発酵して、体に取り込めるような形に加工してくれるわけです。お

かげで、母親の母乳だけでなく色々な食物から栄養を取り込む事が可能になります。

ですから人間の消化管は、特に小腸や大腸は細菌の培養器でもあるのです。

腸管の中に住んでいる細菌の事を腸内細菌叢（フローラ）といいます。フロー

ラを構成している腸内細菌は、その種類は200から400と考えられています

が、正体が分かっているものは極めて少

数です。そして細菌の総重量は500gから1kgに上ると予想されています。その中でも皆さんに馴染みのあるものとして、ビフィズス菌やラクトバチルス（乳酸菌）があります。乳酸飲料や健康食品

これらの細菌は、人間にとっては役に立つ、健康を維持するのになくはならない細菌

で善玉菌とも言われています。ですから、この善玉菌が減ったり、いなくな

たりすると体調が悪くなります。今回の特集の主題でもありますが、便秘はこの

菌の役割が重要だと考えられています。便秘でない人の腸には、便秘の人と比べ

て非常に多くの善玉菌がいることが知られています。ですから腸の中にこれらの

善玉菌を増やしてやれば、便秘を改善する事が可能になるのです。しかし事はそ

う簡単には運びません。三つの大きな障壁があります。第一に、ビフィズス菌が

棲むことのできる腸内の空間が必要です。すでに善玉菌以外の菌が多くはびこっているわけですから、なかなか定着する事ができずに糞便と一緒に流れてしまいます。第二に、ビフィズス菌をはじめとする善玉菌は、口から入ると胃の中で酸によつてほとんどが死んでしまいます。第三に、どうやってビフィズス菌だけ増やしていくか。以上の事を考えて、治療と言うよりも体質改善をしていかなければ快便・快腹を得る事は難しいのです。手段はあるのでしょうか？

答

えは『YES!』です。特にヒン トとなったのは、便秘の方で大腸内視鏡検査を受けた後、しばらくは便通が良くなったという感想です。これらの貴重な意見を中心に具体策を示してみよう。第一に、今まで棲んでいる腸内細菌を一度きれいさっぱり流してしまう事です。大腸内視鏡検査を受けた方は、体験されたと思いますが、ポリエチレングリコールという腸内洗浄液を飲みます。1から2リットルほど飲むので大変ですが、そのくらい飲むと腸内の細菌はほとんど洗い流されます。すなわち、ビフィズス菌が棲む事のできる空間が確保できるわけです。第二に、胃酸に強く、



腸内までほとんど死なないで到達できるビフィズス菌製剤が売られています。

こ

れなら腸内まで必要な量のビフィズス菌を届ける事ができます。ただ、残念な事は、この種の製剤は医薬品でなく、健康食品として扱われており、患者さんには自費で購入していただく事になってしまいます。第三に、ビフィズス菌が十分繁殖するための餌の問題ですが、彼らは好んでオリゴ糖を取り込みます。これは、当院の売店でも販売しておりますが、糖尿病や肥満の患者さ

んにも甘味料として使ってもらえるものです。

これらの方法を使って、何とか便秘で苦しむ患者さんのお力になりたいと考えております。便秘も放置しておけば、裂肛や脱肛などの肛門疾患だけでなく、大腸癌の危険性すら高めてしまいます。風邪は万病の元、といわれますが、便秘もまた万病の元、です。長い期間便秘で悩んでおられる方は、一度大腸内視鏡の検査を受けてください。そしてその機を逃さず、ビフィズス菌による体質改善療法にチャレンジする事をお勧めします。はじめに書きましたように、抗菌思想全盛のご時世ではありますが、こと便秘に関しては、抗菌ならぬ、共菌共栄思想で診療していきたいと思っております。迷わず診療室のドアを叩いてください。

便秘外来は毎週金曜日、14:00より
(予約制になっています)



病院の理念と患者様の権利を掲げて診療をします。

松田病院の理念について

- (1) 私達は一人の人間として自らの良心に従い、医の倫理を守ってベストを尽くします。
- (2) 「奉仕の心と高い技術」をもって、患者様のニーズ(要望)に誠心誠意お応えします。
- (3) インフォームドコンセント(説明と同意)によって、患者様に真実を語り、満足をしていただける医療を提供します。



患者様の権利について

- (1) 患者様は、十分な説明のもとに治療を受ける権利を持っています。
- (2) 患者様は、個人の医療上の秘密が守られる権利を持っています。
- (3) 患者様は、差別されることなく、平等に治療を受ける権利を持っています。
- (4) 患者様は、公的援助制度に関する情報の提供を受ける権利を持っています。

新事務長とついで

事務長 中嶋照夫



研 安 公
鑽 定 平

本年1月1日に新事務長を拝命して、早5ヶ月が経とうとしています。第三代目の事務長として、船出を致しました。この間幸なことに院長をはじめ、元の事務長さん、そして職員の方々から協力を頂き、何とか馬脚を露わすことなしに毎日を送ることができました。

事務長としての第一の仕事は、事務部門の担当職分の明確化と、その移行時に若干の混乱が予想されたため、変化に伴う滞りを回避することでした。これは事務部員個々の役割をいわばGENERALISTからSPECIALISTに改めることでした。これに関しては企画室がリード役となり、事務部員もよく主旨を理解して協力してくれたことから、比較的スムーズに実を上げることができました。未だ完成されたわけではありませんが、これからも継続的に改革の努力を積み上げていかなければなりません。

一方、日常的な院内の管理業務は、事務長、企画室長、事務次長そして総婦長をメンバーとする「四人会」で議論を行っています。この会はいわば事務長のブレインとしての機能を有し、週一回開催して忌憚のない議論をし、上部会議への稟議とするか否かを主として取りまとめられています。新体制が発足してからの数ヶ月間、大きくミスリードすることがなかったのは、この場での議論があったからといえましょう。このカルテット方式は従来からの手法を踏襲していますが、機能評価受審を機に組織体

制を整備した際「FORMAL」な会議として位置付けられました。

「四人会」の理念はメンバーが共通に考えていた、「公平」「安定」「研鑽」を言葉に表し、そして志向していくことです。「公平」は、院内すべての職員が一定のルールに基づき、常に分け隔てなく処遇を受けることです。「安定」は、病院経営の安定化、職員の定着化を促すことです。そして「研鑽」は、教育の提供であり、その上で逆に職員個々に対し自律的に自己研鑽を求めます。

さて目を転じてこれからの病院経営を考えると、院長が冒頭のご挨拶でふれている通り「厚生省の方針通り事態が動いている」ということが、クローズアップされません。従来提起された病院機能分化は当院にとって直接的な影響は大きくありませんでしたが、特定機能病院、地域支援病院という形態として明らかになりました。しかし今年四月の診療報酬の改定では、200床以上とそれ未満という線引きによって、病院としての役割が明らかになりました。その区分けによれば、今回の改定で200床以上の病院に求められている病院機能が、実は「厚生省がイメージする病院そのもの」という気がしてなりません。これは正に当院にとって大きなインパクトを与えるものと推測されます。急性期医療を担う病院として使命を果たそうとすれば、当院としてはたとえ200床未満であっても「厚生省のイメージ」に合致させなくては、生き残れないことを示していると考えられます。これから大きな大きなハードルを越えなくてはなりません。

このように病院を機能させるだけではなく、経営的にも非常に多難が予想される時期に事務長に任命されたことは、ある意味で男子の本懐だと思えます。医療は今後幾重にも渡って、かつ波状的にパラダイムの転換を迫られることになるでしょう。しかし病院は地域の皆様に利用されてはじめて存立が可能となるものです。どんなに医療を取り巻く環境が変わっても病院存立の根本は、地域の皆様に必要とされる病院でありつづけることだと思います。院長を先頭にして医局の先生方、「四人会」のメンバーと、そして職員全員で弛まぬ努力をしていきたいと念じております。



私たち病院職員は院内・院外に対して積極的に活動しています

患者会へのサポート

松田病院にある患者会は松田会（人工肛門患者会）、MC友の会（クローン病患者会）、UC友の会（潰瘍性大腸炎患者会）の三団体があります。各々患者様と病院職員との協力関係によって運営されています。基本的には患者様の会ですから、患者様自身が役員会を運営すべきですが、病気についてのプライバシーの問題もあって、名簿作成にも慎重でなければなりませんから、病院スタッフがお手伝いしています。いずれの会も年3～4回ほど開催されます。内容は患者様のグループワーク、医師及びスタッフの講義などです。

松田会は直腸手術を受けて、仕方なく人工肛門を作らざるを得なかった方々の集まりで、約136名の会員がおられます。平均年齢は66歳、男女比

は3対1です。人工肛門の手入れや装具の話など、多くの問題をお互いに情報交換しています。

MC友の会は約70名の会員がおられ、平均年齢32歳、男女比4対1です。病気の性質上、腹痛・下痢・発熱をはじめ、栄養管理や肛門病変に関する対策をしながら、常に手術を受ける可能性を秘めて日常生活をしなければならぬことで、会員同士のコミュニケーションがより一層大切です。

UC友の会は約180名の会員数で、平均年齢47歳、男女比3対2で下血・下痢・腹痛を抱えながら長年に渡って治療をされています。副腎皮質ホルモンによる内科的治療の限界になった時は手術です。このように人知れず重荷を背負って奮闘されている方々にも、温かいご理解をお願い致します。

当院企画室のサポート

日本大腸肛門病学会 第6回 教育セミナーへのサポート

藤田保健衛生大学消化器外科と松田病院が当番世話人代表となり、上記教育セミナーが平成12年2月20日、愛知県医師会館において開催され、東海地区を中心として全国各地から総勢141名の受講者（医師）を迎えて行われました。

講演内容は大腸関連から3題と、肛門関連から2題あり、最後に総合討論で締め括られました。このように今後の大腸肛門病に対し貢献できる会を、皆様と共に当院の企画室も開催に当たり協力させていただきました。

現在は地域連携室を7月に開設できるようがんばっています。



ドリンクコーナー
ご自由にどうぞ

21世紀への助走と わが病院は今 院長◎松田 保秀

いよいよ20世紀最後の年も中盤にさしかかってきました。戸外の空気が澄んで陽射しが強くなり、日中は汗ばむほどで、一年中で一番美しく輝き、活力に溢れ希望に燃える季節です。5月6日ごろが陽暦の立夏にあたるというのも頷けます。

さて、世の中の動きは相変わらず低迷状態ですが、一部では建設の槌音も聞かれ、9月ごろには景気回復の兆しが見られるとことです。期待したいと思います。

医療界ではこの4月の改訂で、またまた大きな変革が出現したと思います。診療報酬の内容が吉と出るか、凶と出るかはもう少し期間が必要ですが、厚生省の方針通り事態が動いていることは間違いないです。当院の今後の進む道は、基本的には急性期医療であって、胃腸肛門の専門病院として、108床をより効率よく回転させて、多くの患者様のご要望に応えることだと考えています。従いまして相当にレベルの高い診療内容、看護体制を確立していく必要に迫られています。その前に、今年の新年のご挨拶で掲げました目標の達成状況をご報告しておきます。

まず、第1の事務部門の新体制は中嶋事務長、平田次長、郡室長、鈴木・竹下財務部長との協力体制で、少しずつ動き始めました。第2の病院機能評価受審は3月14日に行われ、評価結果を待つだけです。ところが嬉しいことに、受審に向けての準備の過程で、職員の意識が大きく変化してきました。結果的には院内の整備ができて、私的病院の置かれている立場を理解してもらえらるようになり

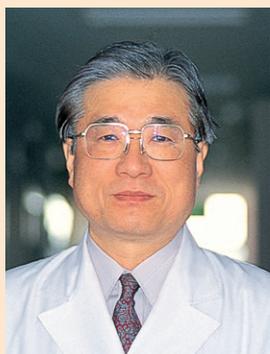
ました。その点で機能評価受審のメリットは大きかったと思います。第3に名古屋で開催しました日本大腸肛門病学会の第6回教育セミナーは大成功で、会員の皆様から高い評価をいただき満足していると共に、皆様のご支援に心から感謝致しております。介護保険、病室環境整備問題は、もう少し経過を見定める必要があります。

この4月からの大きな変化として、当院の医局の新体制があります。大学人事や研修終了と共に、医師の入れ代わりがありました。友近医師が内視鏡専属の専門医および麻酔科標榜医として診療しておりますので、従来の勤務体制と変わっていることをご了承下さい。従いまして、医局長は友近医師から木村医師に交代となりました。医局は今まで以上にベテラン医師が多くなりましたので、皆様のご要望に十分お応えできるものと思います。

また、7月スタートを目指して地域連携室を開設すべく、準備を行っております。これは今後益々必要となります病院―診療所、病院―病院連携をスムーズに行うためのものです。各施設のお忙しい先生方が連携室に気軽にアクセスしていただけると幸いです。もうひとつ当院が計画しているプロジェクトは、患者様のための大腸肛門病に関する診療手引きというべき書籍作りです。21世紀になるまでに完成させたいと思います。

これからの季節は食中毒など胃腸系の病気が多くなりますので、くれぐれも注意の程お願い致します。

新体制 医師紹介



まつだ やすひで
松田 保秀

- 1. 出身地
- 2. 血液型・星座
- 3. 医師から患者様へのメッセージ
- 4. 休日の過ごし方
- 5. ストレス解消法

- 1. 京都府
- 2. A型 山羊座
- 3. 自分の健康は自分で守る気概を持って早目の受診をし、かかりつけ医をうまく利用して下さい。
- 4. 文字通り休息。時には地元を離れて観光や、トレーニング。
- 5. 音楽鑑賞、読書で自分の世界に浸る。



1. 佐賀県
2. B型 山羊座
3. 思いやりのある医療
4. 趣味
5. 特になし



きむら こうぞう
木村 浩三

1. 東京都
2. A型 乙女座
3. 皆様の健康管理にお役に立てるよう、精一杯頑張ります。
4. 読書、音楽鑑賞、旅行
5. スポーツ



かわかみ かずひこ
川上 和彦

1. 千葉県
2. B型 獅子座
3. 自分の病気をよく理解して、付き合っていくきましょう。
4. 子守り
5. 週1回のテニス



おおもり ひとし
大森 斉

1. 引佐郡細江町中川
2. AB型 水瓶座
3. 誠意を持って診療いたします。
4. 少年サッカーのコーチ
5. サッカーの試合（Jリーグ、セリエA、プレミアリーグ…）を観る。
・スポーツ（サッカー、野球、etc）をやる。



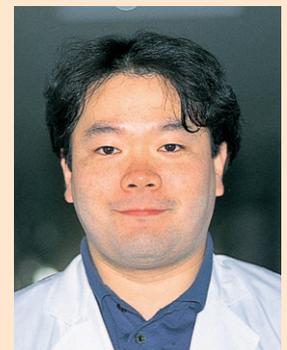
かねこ ひろし
金子 寛

1. 岡山県
2. A型 山羊座
3. “医食同源”昔の人はうまいことを言ったものです。
4. 専業主夫
5. モグラ叩き



ともちか ひろし
友近 浩

1. 東京都
2. A型 天秤座
3. 何かご自身の健康等についてお気付きのことがございましたら、我慢しないで松田病院へ行きましょう。
4. 絵を描いたり、音楽を聴いたり、ドライブに出かけたり・・・など。
5. 基本的には休日の過ごし方と同じなのですが、やっぱり楽しいことを想像（？）したり、新しい絵を創造することが一番いいと思っています。あと、お酒を少々（？）…。



ひらの けいたろう
平野 敬太郎



水野清蔵様 後列右端

表紙写真、撮影者の紹介

ヤシオツツジ 水野 清蔵

布橋の町でテイラーを開業して40年余り。仕事の傍らで風景、山、野草などの写真をずっと撮り続けてまいりました。

小さな写真愛好家の集まりで松田病院のスタッフと知り合い、写真の話で意気投合し、昨年より二号館一階に何枚かの私の写真を掛けさせていただいております。今回は、この「あいあい通信」の表紙の依頼を受け、川根（山犬段）で撮影した、ヤシオツツジを提供させていただきました。若い頃のように思うようにはいきませんが、もう一つの趣味である山歩きの際には、カメラを片手に瞬時のシャッターチャンスを狙いながらも、色々な顔の自然を満喫しております。

このように私の写真が多くの人の目に触れる事のできる場を提供してくださいました、松田病院に感謝申し上げます。

INFORMATION

講習会・友の会 開催のお知らせ

UCC友の会（潰瘍性大腸炎患者会）

5月下旬予定

受付窓口より 医療相談のご案内

当院では患者様の病気、治療に関する必要な情報について、十分な説明をするよう努めております。病気の治療にあたっての不安なこと、わからないこと、相談したいこと等、どうぞご遠慮なく私たち受付職員までお申し出下さい。

私たちが医師、看護師、ケースワーカー等から十分な説明がされるよう、橋渡しをさせていただきます。

医師・看護師など
医療スタッフが
サポートいたします。



放射線部 骨塩量測定検査を開始しました



平成12年4月より骨塩量測定装置を導入致しました。骨は毎日少しずつ作られると同時に、少しずつ壊されています。このバランスが崩れると骨が余分に作られたり、もろくなったりします。もろくなった状態を、骨粗鬆症といいます。自動血圧計の様に、腕を差し込んでいただければ、自動的に測定することができます。一度検査を受け、半年後にもう一度検査を受けると、骨の状態とその後の変化が分かります。短時間で済む検査で痛みもありませんので、どうぞお気軽に、お受けください。

VOL.14 編集後記

新年度がスタートし、医師の交代、新卒職員の入職などがあり、やっと体制的にも落ち着いてきました。皆様にはご迷惑をおかけしたかもしれません。が、今後ともよろしくお願い致します。



●患者様へお願い●月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

【外来診療のご案内】

受付時間		診察日
午前	胃腸科・肛門科	● 8:30 ~ 11:30 月~土
	内科相談	● 8:30 ~ 11:30 水
	ストーマ外来	● 8:30 ~ 11:30 火・木・金
	血管外来	● 8:30 ~ 11:30 水
午後	胃腸科・肛門科	● 2:00 ~ 4:00 月~金
	泌尿器科相談	● 1:30 ~ 3:00 火・木
	IBD 外来	● 2:00 ~ 4:30 水
	便秘外来	● 2:00 ~ 4:00 金

午前中の診療に限り予約制になっております。(初めて受診される方、緊急時等はこの限りではありません。)
 〈電話予約(変更等) 受付時間 平日の午後1:00~3:00〉
 ※予約のない方は、主治医以外の医師になることがあります。



JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
 バス=浜松駅バスターミナル5番ポール(宇布見、山崎行)乗車 東彦尾
 または西郵便局下車 徒歩5分
 E-mail matudahp@inh.co.jp
 ホームページ <http://www.inh.co.jp/~matudahp/>



特定医療法人社団
松愛会

松田病院

〒432-8061 浜松市入野町753番地

TEL.053-448-5121(代)
FAX.053-448-9753

(発行/松田病院広報委員会)